

近世琉球における書跡の用印 — 館蔵書跡資料の調査をもとにして —

稻 福 政 齊¹⁾

Seals used in Calligraphy in Early Modern Ryukyu

Based on the Study Results of the Collection Materials of Okinawa Prefectural Museum and Art Museum

Masanari INAFUKU¹⁾

一 はじめに

書画の作者や真贋を見極める際、落款、すなわち作者の署名の筆跡と用印の照合は古くから最も有効な方法のひとつとされてきた。そのため、日本や中国においてはこれら鑑識の便に供すべく名家の落款を集めた書物が多く編まれている。

ひるがえって琉球の古書画については、その落款印章をまとめた資料は従来ほとんどなく、わずかに『沖縄県文化財調査報告書 第44集 昭和56・57年度歴史資料調査 扁額・聯等遺品調査報告書』(沖縄県教育庁文化課編 1983) や、『未公開作品による琉球王朝の書画』(古美術観宝堂編 1992) などで掲載作品の用印の印文等が紹介される程度である。

琉球の書跡は、さる大戦などで失われたものも多いことから、現在約400点を数える沖縄県立博物館・美術館所蔵の書跡関係資料は、質量ともに随一のものと思われる。ゆえに、その総合的な調査と分析は、琉球・沖縄の書を知るうえで大きな意義をもつといえる。

そこで本稿では、沖縄県立博物館・美術館が所蔵する近世琉球の書跡に用いられた印について可能な限りもれなく調査し、「館蔵近世琉球書跡資料用印一覧」を作成してその全容を通観する。そしてこれをもとに、印文と用法という面から近世琉球における書跡の用印の特色を実例に即しつつ述べていくこととした。

なお、本稿では館蔵の書跡資料のうち掛幅、巻子等の真跡のみを扱い、木刻の聯や扁額等を含まない。

かったこと、また冊封使など来琉した中国人の作品についても対象としなかったことをあらかじめお断りしておきたい。

二 印文の種類からみた特色

1 姓名印

使用者の姓名あるいは、姓や名のみを刻した印を姓名印といい、白文(陰刻)で刻されることが多いが、朱文(陽刻)の場合もある。

近世琉球における姓名印では、姓名ともに刻する場合はほぼ例外なく唐名が用いられている。

江戸期の日本の文人などは頬山陽、菅茶山、柳里恭などのごとく、本名とは別に中国風の名を称して(注1)詩を賦し、書画に名を署したほどであるから、制度上唐名を有する琉球の士族層にあっては、当然にこれを書画の落款に用いたものと思われる。

唐名の姓名印の典型的な形式は、鄭嘉訓の「鄭嘉訓印」【№.4～8】、鄭元偉の「鄭元偉印」【№.26～28】、尚慎の「尚慎之印」【№.97、98】、毛台光の「毛台光印」【№.127】のような白文方印である。そのなかにあって尚健の「尚健之印」【№.94】はたいへん特徴的で、円形の朱文印とし、印文の周囲には唐草文を廻らせている。魏學詩の「魏學詩印」【№.63】も琉球では珍しい円形の姓名印である。

また、印面が長方形の材の中央に溝を彫り、上下に2顆を連ねた印影となるよう製作した印を連珠印といい、日本では俗にその形状から下駄印などとよばれる。

1) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006 Japan

琉球ではごく小型の姓名印に作例があり、当館の収蔵資料には尚育の「尚／育」【No.88】の石印がある（図版1）。また、印類は確認できないものの、鄭元偉の「鄭印／元偉」【No.31】なども印影からみて連珠印と思われる。

和名については、名乗のみを刻した印は多くみられるが（これについては「字号・別号印」の項で述べる）、家名と名乗を組み合わせ「伊江朝直」などとする、いわゆる和名のフルネーム的なものや、家名のみを刻した印は、近世までの琉球では管見の限りでは見出せない。

これについては、琉球の士族の家名は基本的に所領名であり、人によっては領地の異動による家名の変動が生涯に幾度もあるなど、必ずしも家や個人を示す苗字とは捉えられていなかつたことが背景にあるのであろう。また、近世の日本でも苗字ではなく本姓（源、藤原など）を印に刻する例の多かったことの影響も考えられる。

2 号字・別号印

使用者の字号（字）^{あざな}を刻した印を字号印、または表字印という。字号のみを刻したもののはか、「字〇〇」「字曰〇〇」「〇〇氏」などとするものもある（注2）。

沖縄を含め、現代の日本人のほとんどは字をもたないため、近年では字号印を用いることはきわめて稀だが、古い書画等をみると姓名印と対で用いた例が多い。館蔵資料の落款にみられる印では、鄭嘉訓の「爾方」【No.11～18】、鄭元偉の「長烈」【No.33】、魏學賢の「有昌」【No.61】、魏學詩の「有言」【No.64】な



図版1 尚育の連珠印「尚／育」の印類（左）とその印面（右）

どが字号印に分類されるものである。

曾暦の朱文方印「敬授」【No.67】も字号印と思われるが、『曾姓家譜』（注3）では字を欽授とする。曾暦は、禁字を避け諱を暦から信に改めたことが家譜に記載されるが、字も敬授からのちに欽授に改めたものと思われる。尚貞王代の1677年に生まれ、尚敬王代末の1746年に没した曾暦が字を改めたのは、尚敬王（1700年生・1713年即位）の諱との同字を避けたと考えられるため、「曾暦」「敬授」の印を用いた館蔵の書跡は比較的若書であると推測できる。

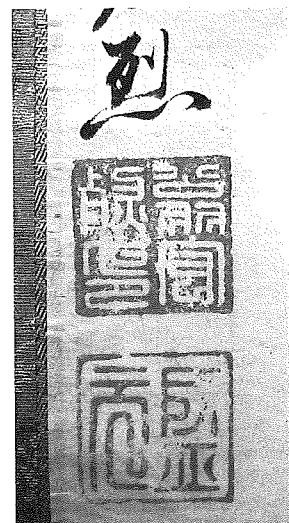
また、印文に別号（いわゆる号や雅号といわれるもの）を刻した印を別号印という（注4）。館蔵資料の落款にみられる別号印には、鄭元偉の「善橋」【No.34、35】、向國柱の「砥齋」【No.113】、毛世輝の「文山」【No.125】などがある。

近世琉球の書画では、別号印も字号印と同様に姓名印と対で用いた例が圧倒的に多い。字号印、別号印とともにそのほとんどが朱文なのは、対で用いる姓名印の多くが白文で刻されるためである。

また、これは近代以前の琉球の書跡における印の用法の特色ともいえるが、和名の名乗のみを刻した印は、字号や別号を刻した印とほぼ同様な用い方がなされる。

その一例として翁宏烈（伊倉堂盛元）の書幅を示すと、唐名の姓名印「翁宏烈印」【No.142】、和名の名乗を刻した「盛元」【No.143】の2種を連ねて用いている（図版2）。

このような印の用法は、和名の名乗をもつ首里や那覇の士族層では一般的なものであったらしく、尚



図版2 翁宏烈の書幅落款部分。白文方印「翁宏烈印」の下に朱文方印「盛元」を用いている。

慎（玉川朝達）などは館蔵資料4件いずれにも「尚慎之印」「朝達」の印文をもつ2顆を落款に用いている。

3 堂号印

使用者の居宅や書斎、祠堂などの名を刻した印を堂号印という。

堂号とは建物の名や室名のことで、古来中国では屋舎や室に「○○堂」と号するものが多かった。また、「斎」「館」などの字を付すこともあったため斎館印、これを略して斎館印などともいう。

中国明代の文人・文徵明は「我之書屋多起於印上（我が書屋は多く印上に起造す）」といったように、実際に書斎はなくとも風雅な堂号を考えて印に刻することもあり、ひとりで複数の堂号をもつ例も珍しくなかった。

近世琉球の書跡では、引首印として堂号印の用例が多く、ことに久米の鄭氏一門や首里の向姓諸家などではその傾向が顕著である（注5）。

鄭嘉訓の引首印は数種確認できるが印文はすべて「經德堂」【No.19～24】「經德」【No.25】であり、鄭元偉ももっぱら「通德堂」【No.36～38】の引首印を用いている。くわえて、鄭章觀、鄭德潤の「滋德堂」【No.52、59】、鄭永泰の「樹德堂」【No.47】などの引首印もあることから、鄭氏一門では「徳」を通字とした堂号を用いたことがわかる。

また、王家の支流である向姓では、雍正10（1732）年に一門の諸家に対し王廟龍淵殿の「淵」字を用い各々の祠堂の号とするようにとの王命により、「雲淵堂」（伊江御殿）、「宗淵堂」（玉川御殿）などの堂号を称するようになった（注6）。

館蔵資料のなかにも、尚健（伊江朝直）の「雲淵堂」【No.96】、尚慎（玉川朝達）の「宗淵堂」【No.101、102】のほか、向國柱の「智淵堂」【No.114】、向元模の「仁淵堂」【No.110、111】の引首印が確認できる。

ただし、鄭氏や向姓におけるこのような堂号は、祖先を祀る祠堂の名として一門や一族で共通に使用され、また代々受け継がれたため、同じ向姓伊江御殿一門に属する尚健と向世俊（仲田朝重）がともに

「雲淵堂」の引首印を用いるなど、同門の複数の人物が同じ堂号を刻した印を用いた例がある。さらに、鄭其昌の場合は、曾祖父の鄭嘉訓が用いた朱文

長方印「經德堂」【No.22】をそのまま引き継ぎ、自らの引首印としたことが館蔵資料からも知られる。

一方、一族で共通に用いる祠堂の号ではなく、もっぱら文雅の趣を求めて個人的に居宅や書室に付した堂号、室名と思われるものを刻した印もある。これにあたると思われるものとしては、魏學賢の「鶴山軒」【No.62】、毛維翰の「汲古堂」【No.117】などがある。

4 貫籍印

使用者の出身地や本貫（一族の発祥地）などを刻した印を貫籍印という。

館蔵の書跡資料では、鄭元偉が扇面などの小品に用いた小型の引首印に「中山」【No.39】と刻したものがあるほか、馬昌浩も「中山府」【No.138】の引首印を用いている。

なお、琉球では画人の用印にもいくつかの用例がみられ、殷元良（座間味庸昌）の「中山首里」、吳著溫（屋慶名政賀）の「球陽」などが知られる。

5 詞句印

座右銘など自らの好む詞句を刻した印を詞句印、あるいは成語印などという。またきわめて趣味性の高い印であることから、遊印、閑章などともいわれる。

詞句印のうち、めでたい意味を持つ印文のものをとくに吉語印といい、古くは漢印にも多くの例があるほか、今日でも引首印などによく用いられる。

琉球の書画における詞句印には、曾暦の「雲山江水」【No.68】、毛世輝の「汲古」【No.126】、翁宏烈の「山水志」【No.144】などのように長方形や楕円形のものを引首印として用いるほか、尚育の「別是間滋味」【No.91】のように方形や円形の詞句印を姓名印などと組み合わせて用いた例もある。

前述のとおり、詞句印には自らの好む語を刻するため、いずれの印文からも使用者の趣味や信条といったものがうかがえ、ことに程順則の「天下經綸一束書」【No.74】などは、学者、道徳家として知られる人物らしい印文といえる。

6 肖形印

印面に動物の姿など文字以外の図を刻したもの

肖形印、または図像印ともいい、殷・周の青銅器などの文様に起源をもつとされる。

近世琉球の書跡では、文字がなく図のみを刻した印は筆者の管見の限りでは確認できないが、鄭章觀の「滋德堂」【No.52】や尚溫の「質厚爲本」【No.84】は、印文の周囲に一对の雨龍文を巡らせている。そのほか、尚育や尚健の用印にも印文を唐草文で囲んだものがある。

7 その他

現在ではほとんどみられないが、官職名等を刻した印もかつては書画に用いられた。

琉球人の作ではないが、冊封使の書跡の用印には位階や官職名、科挙の成績などに関する印文をもつものが多い。尚敬王の冊封副使である徐模光の用印に「探華郎」とあるものもこの一種で、探華（探花とも表記）とは科挙の殿試において第3位の成績で進士に及第した者の称である。

琉球人の書跡としては、1832（道光12）年の江戸上りの際の樂童子・毛種美（譜久村安章）の書幅に「樂童子」の白文方印を用いた例などが確認できる（註7）。

また、使用者の居所を刻した住址印、あるいは家居印も琉球ではあまりみられないもので、程順則が「家在鳳凰山下」【No.75】の朱文方印を用いた例がある程度であろう。

紀年印といって、生年や年齢、書画の製作年などを示す印文をもつ印もあるが、筆者の管見の限りでは、近世琉球の書画ではその用例は見あたらない。

三 用法からみた特色

1 引首印

書の冒頭上部、多くは右肩に押される印を引首印という。閨防印、冠帽印などともいうが、閨防とは本来、中国明代の官印にあった長方形の割印をいい、これに形状が似ることから書画に用いる長方形の印の俗称とされたようである。

引首印には長方形や橢円形など縦長の形状のものが多く、堂号や詞句などを刻するのを通例とする。

琉球の書跡においては、鄭元偉、鄭嘉訓の書幅や扁額、聯などにはほぼ例外なく堂号を刻した朱文長方印が本紙の右上にみられるのをはじめ、梁文弼の

「誠孝堂」【No.81】や馬文英の「詒穀堂」【No.141】など、多くの人物が堂号を刻した引首印を用いている。

一方、詞句印を引首印とした例としては、楊文彬の「青山綠水是生涯」【No.78】、尚育の「一谿雲」【No.93】などがあるが、近世琉球の書跡においては堂号に比べて詞句を刻した引首印はさほど多くないという印象を受ける。

なお、向傑は自身の名乗を刻したと思われる朱文長方印「朝當」【No.105】を引首印としているが、姓名や字号などを刻した印を引首印に用いるのはひじょうに稀なことである。

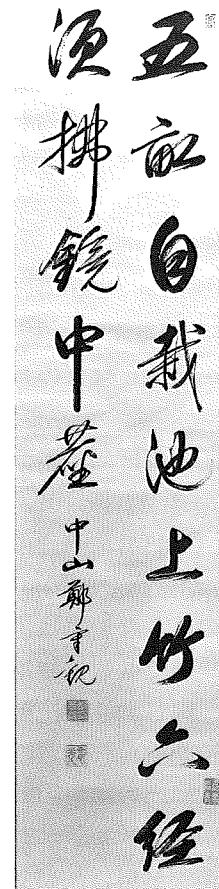
引首印は、漢詩文などを揮毫した際に用いるのが通例で、原則として仮名の作品には用いない。これは琉球の書跡においてもいくつかの例外はみられるものの、ほぼ同様である。

2 押脚印・遊印

書画作品において本紙の下部、すなわち脚部に捺す印を押脚印といい、作品の余白部分の弱さを補い、変化を持たせるなどの目的で用いる。また、本紙の下部以外に捺した場合は押脚とはよばず、たんに遊印などという。

形状にもとくに定式ではなくさまざまなものが好みで用いられ、また、印文も自由であり詞句印、堂号印、紀年印、住址印など、さまざまな印文を持つたものがある。

ただし、たいへんに趣味性の高い印で、書画の作品には必ず用いるというものではなく、琉球の書画においてはその使用例はひじょうに少ない。館蔵資料では鄭章觀の作品に白文長方印「書帶階青」【No.54】の使用を確認できる程度である（図版3）。



図版3 鄭章觀の書幅。一行目下部「六」と「經」の間に白文長方印「書帶階青」を用いる。

四 おわりに

館蔵の近世琉球の書跡の用印を通観し、まず気がつくのは鄭嘉訓、鄭元偉の用印の多さであろう。ことに鄭嘉訓は館蔵資料において確認しうるだけでも20顆以上を数え、さすがに書で一家を成しただけあって群を抜いて多くの印を用いたことがわかる。

しかし興味深いことに、鄭嘉訓や鄭元偉に限らず他の人物にもいえることだが、たとえ多くの印を所持していても、2顆を上下に連ねて用いる場合、姓名印と字号印の組み合わせ方はほぼ一定している。さらに、引首印を用いた場合でも、これも含めて3顆の組み合わせは同じである例が多い（「館蔵近世琉球書跡資料用印一覧」表の「使用された書跡の資料番号」参照のこと）。同じ組み合わせの印はそれぞれ刻風も似通ったものが多いことから、おそらく引首印、姓名印、字号印の3顆をセットで作り、用いる際もこの3顆を一組とするのが普通だったのだろう。

また、近世以前の琉球では、人名のありかたが中国とも日本とも異なるものであったため、主に姓名や字、号などの人名を刻する書画の用印のありようも若干他の地域とは違いがみられることがわかる。

そして、こと書跡に関していえば、琉球における書は文人の余技というよりもっぱら貴士族層の教養、嗜みのひとつとして行わられたものであるため、落款に用いる印も文人趣味の横溢した詞句印などは案外少なく、引首印には自らの属する一門や家を示す堂号を刻し、唐名による署名に続けて唐名の姓名を刻した白文方印、その下に字号や別号、あるいは和名の名乗を刻した朱文方印というのが、最も典型的なスタイルであったと考えられる。

これが、現代のように日本本土と変わらないスタイルへと移行するのは、人名のありようが他府県とほぼ同じようになり、また日本本土との文化面での直接間接の交流がとみにさかんになってきた近代以降のことであろう。

平成23年4月より、筆者は当館の資料整理業務に携わる機会を得て、おもに書跡資料の整理に従事してきた。本稿はその成果に基づき構成したものだが、いまだ遺漏や誤謬も多くあるものと思われる。これらについてはさらに調査を重ね漸次補訂していく

きたいと考えているので、諸賢のご教示を乞いたい。

今回、本紀要への執筆の機会をお与えいただいた当館学芸諸氏、ことに多くのご指導ならびにご助言を賜った担当学芸員の與那嶺一子氏、資料撮影にご協力をいただいた早瀬千明氏に対しては、衷心より感謝申し上げる。

また、標題の英訳については、三浦昌隆氏、玉城留美氏より懇切なご教示を賜った。

なお、筆者が琉球の書跡に深く関心を寄せるようになったのは、恩師・佐久本白鴻先生のご指導によるところが大きい。拙いながらも本稿を世に向うことでいさかなりとも師恩に報いることができれば幸いである。

注

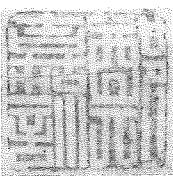
- (1) 江戸期には、苗字の一字をとるなどして中国風の姓とすることが知識人のあいだで流行した。これを修姓、修名などという。
- (2) 筆者の管見の範囲では、近世琉球の書跡の用印に「字〇〇」「〇〇氏」などの印文はいまだ確認できない。ただし、絵師では殷元良（座間味庸昌）の「廷器氏」や呉師虔（山口宗季）の「子敬氏」の印が知られるので、なお博捜すれば見出し得るのではないかと思われる。
- (3) 那覇市企画都市史編集室編『那覇市史 資料篇第1巻6 家譜資料（二）久米系』（1980）所収
- (4) 今日の日本においては「雅号印」というのが一般的である。
- (5) 沖縄における堂号の使用については、上江洲敏夫「堂号について」（『沖縄県立博物館紀要 第12号』1986 19~24頁）に詳しい。
- (6) 御殿家の家譜には、しばしばこのことに関する記事がみられる。ただし、祠堂とはいっても諸家が実際に祖靈を祀る独立の堂宇をもつた例は、琉球では蔡氏の忠靈堂以外にはほとんどなかったようで、多くはこれら堂号を書した扁額を御靈前（仏壇）の上に掲げるなどした。
- (7) 古美術観宝堂編『未公開作品による 琉球王朝の書画』（1992）38頁

館藏近世琉球書跡資料用印一覽

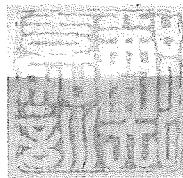
凡例

1. 本一覧は、沖縄県立博物館・美術館が所蔵する近世琉球の書跡の用印につき、その印影を集めて、分類したものである。よって、当該人物の用印すべてを網羅したものではないことに留意されたい。
2. 図版はそれぞれ使用者ごとに分類し、姓名印、字号・別号印、堂号印、詞句印などと印文の種類により配列し掲げた。
3. 使用者は久米系、首里系の順に掲げ、久米系では鄭氏一門の人物に続きその他の氏に属する人物を、首里系では国王、王族、向姓一門、その他の氏に属する人物の順に配列した。
なお、これは本稿において比較対象をしやすくするための便宜上の配列である。
4. 各人物とも唐名を見出しそうだが、ほかに字号や和名等の知られる人物については、これを付記した。
5. 複数の資料に同一の印が用いられている場合は、最も印影の鮮明なものを選び図版に採用した。
6. 紙幅の都合上、図版は原寸とはしなかった。それぞれ法量(縦×横、単位はcm)を付記しておいたので参考とされたい。

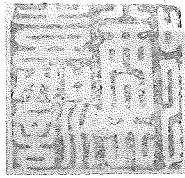
鄭 嘉 訓 (古波藏親方 爾方) 1767-1832



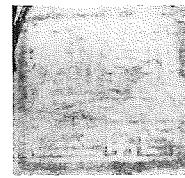
1 鄭嘉訓 (2.7 × 2.7)



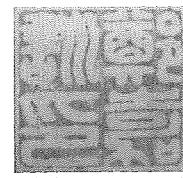
2 鄭嘉訓 (3.0 × 3.0)



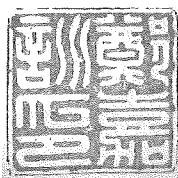
3 鄭嘉訓 (3.0 × 3.0)



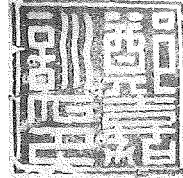
4 鄭嘉訓印 (2.8 × 2.8)



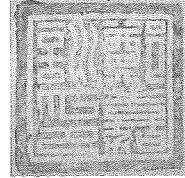
5 鄭嘉訓印 (2.8 × 2.8)



6 鄭嘉訓印 (4.6 × 4.6)



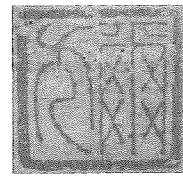
7 鄭嘉訓印 (4.8 × 4.8)



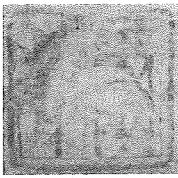
8 鄭嘉訓印 (4.8 × 4.8)



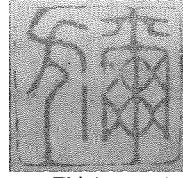
9 嘉/10 訓
(上下とも1.0 × 1.0)



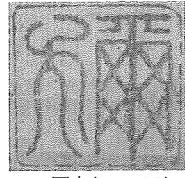
11 爾方 (2.6 × 2.6)



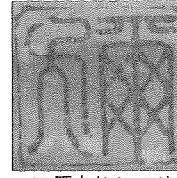
12 爾方 (2.8 × 2.8)



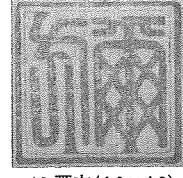
13 爾方 (2.8 × 2.8)



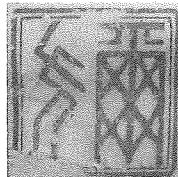
14 爾方 (3.0 × 3.0)



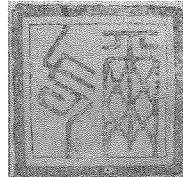
15 爾方 (3.0 × 3.0)



16 爾方 (4.6 × 4.6)



17 爾方 (4.7 × 4.7)



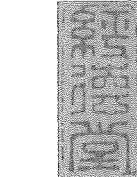
18 爾方 (4.8 × 4.8)



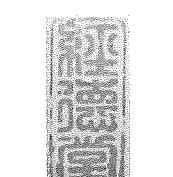
19 經德堂 (3.6 × 1.5)



20 經德堂 (3.6 × 1.5)



21 經德堂 (3.5 × 1.6)



22 經德堂 (3.7 × 2.2)
※鄭其昌と同一



23 經德堂 (5.7 × 2.5)

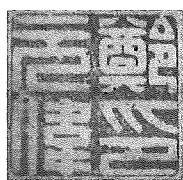


24 經德堂 (6.7 × 2.8)

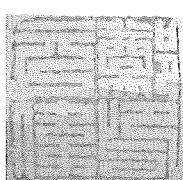


25 經德 (1.4 × 0.7)

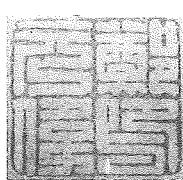
鄭 元 偉 (湖城親方 長烈 善橋) 1792-?



26 鄭元偉印 (3.0×3.0)



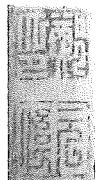
27 鄭元偉印 (3.0×3.0)



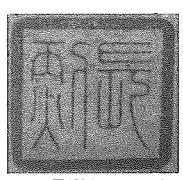
28 鄭元偉印 (3.5×3.6)



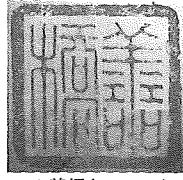
29 元/30 偉
(上下とも0.8×0.8)



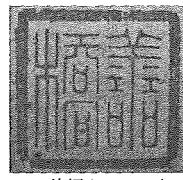
31 鄭印/32 元偉
(上下とも1.0×1.0)



33 長烈 (3.0×3.0)



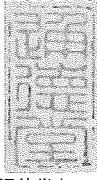
34 善橋 (3.0×3.0)



35 善橋 (3.5×3.5)



36 通德堂 (3.5×1.7)



37 通德堂 (3.5×1.8)

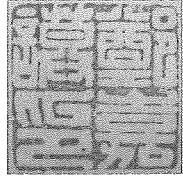


38 通德堂 (3.9×1.8)

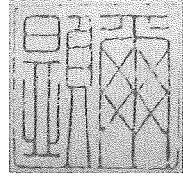


39 中山 (1.7×0.7)

鄭 嘉 謨 (古波藏親雲上 丕橋) 1764-1797



40 鄭嘉謨印 (2.7×2.7)



41 爾顯 (2.7×2.7)



42 經德堂 (3.6×1.5)

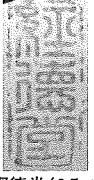
鄭 其 昌 1841-?



43 鄭其昌印 (2.6×2.6)



44 ■橋 (2.6×2.6)



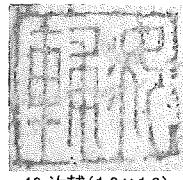
22 經德堂 (3.7×2.2)

※鄭嘉訓と同一

鄭 永 泰 (仲嶺親雲上)



45 鄭永泰印 (1.3×1.3)



46 汝輔 (1.3×1.3)



47 樹德堂 (3.9×1.7)

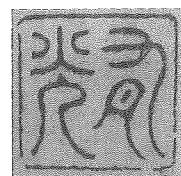
鄭 章 觀 (屋富祖親方)



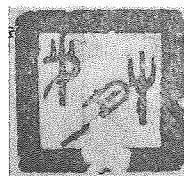
48 鄭章觀印(3.0×3.0)



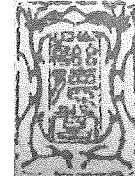
49 鄭章觀印(3.1×3.1)



50 有光(3.0×3.0)



51 有光(3.2×3.2)



52 滋德堂(2.5×1.8)

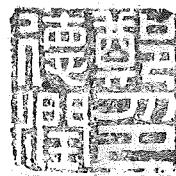


53 一山一壑(3.0×1.7)

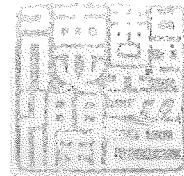


54 書帶階青(3.8×2.1)

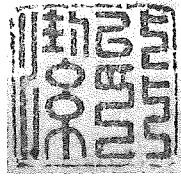
鄭 德 潤 (屋富祖親雲上)



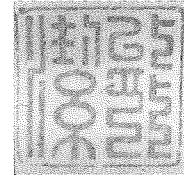
55 鄭德潤印(3.1×3.1)



56 鄭德潤印(4.2×4.2)



57 能潔(3.1×3.1)

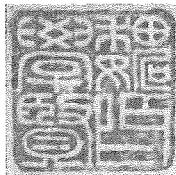


58 能潔(4.2×4.2)

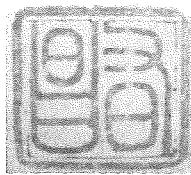


59 滋德堂(6.4×3.0)

魏 學 賢 (魏學誠 牧志親雲上 有昌) 1806-1850



60 魏學賢印(2.6×2.6)



61 有昌(2.6×2.6)

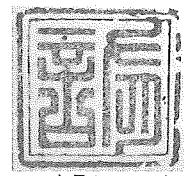


62 鶴山軒(3.1×1.3)

魏 學 詩 (有言) 1804-?



63 魏學詩印(3.0×3.0)

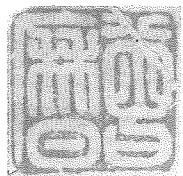


64 有言(3.0×3.0)

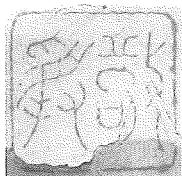


65 七思軒(3.5×1.3)

曾曆 (曾信 砂邊親方 欽授) 1677-1746



66 曾曆(2.6×2.6)

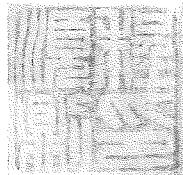


67 敬授(2.6×2.6)

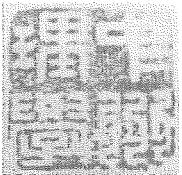


68 雲山江水(3.1×1.3)

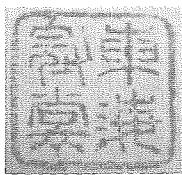
程順則 (名護親方 寵文 雪堂) 1663-1735



69 程順則印(3.5×3.5)



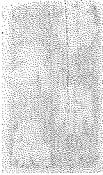
70 中州理學(1.8×1.8)



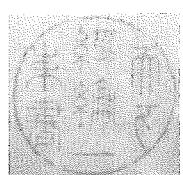
71 東海冠裳(1.8×1.8)



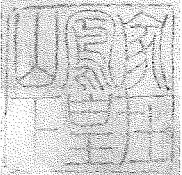
72 雪裏書聲(2.6×1.4)



73 ■■■■(3.1×1.7)

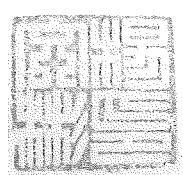


74 天下經綸一束書
(3.8×3.8)

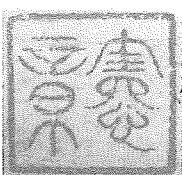


75 家在鳳凰山下
(3.5×3.5)

楊文彬 (名嘉地親雲上 憲章)



76 楊文彬印(2.5×2.5)

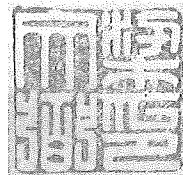


77 憲章(2.5×2.5)

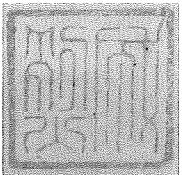


78 青山綠水是生涯
(3.0×1.6)

梁文弼 (富山親雲上) 1794-1832



79 梁文弼印(3.4×3.4)

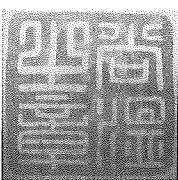


80 成烈(3.4×3.4)

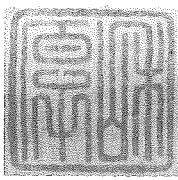


81 誠孝堂(4.3×2.1)

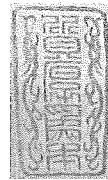
尚温 1784-1802



82 尚温之章(4.9×4.9)



83 和厚(4.7×4.7)

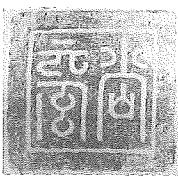


84 賢厚爲本(6.0×3.0)

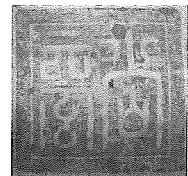
尚育 1813-1847



85 尚育圖章(3.6×3.6)



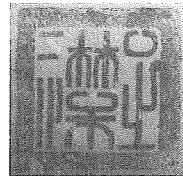
86 尚育(3.7×3.7)



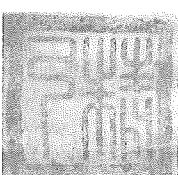
87 尚育(6.0×6.0)



88 尚/育(3.3×1.1)
※印面は上下とも1.1×1.1



89 正襟?(3.7×3.7)



90 精了(6.0×6.0)



91 別是間滋味(3.6×3.6)

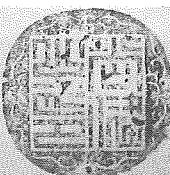


92 必正?(4.3×2.0)

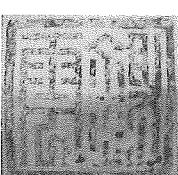


93 一谿雲(5.3×2.7)

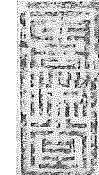
尚健 (伊江王子 朝直) 1818-1896



94 尚健之印(3.6×3.6)



95 錫(銀?)雲(3.6×3.6)

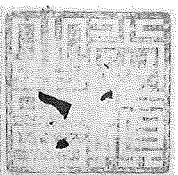


96 雲淵堂(4.4×2.0)

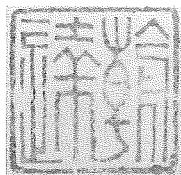
尚慎 (玉川王子 朝達) 1826-1862



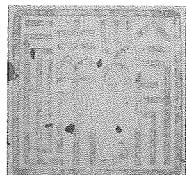
97 尚慎之印(3.4×3.4)



98 尚慎之印(6.1×6.1)



99 朝達(3.4×3.4)



100 朝達(6.1×6.1)

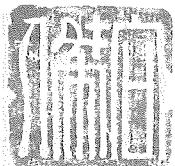


101 宗淵堂(4.6×2.5)

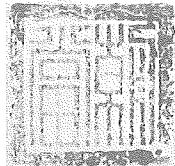


102 宗淵堂(6.5×3.1)

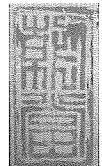
向 傑



103 向傑(3.8×3.8)



104 朝當(3.8×3.8)



105 朝當(4.6×2.2)

向 元 模 (野村親方 朝宜)



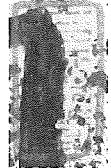
106 向元模印? / 107 朝宜
(上下とも1.0×1.0)



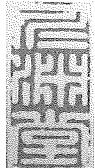
108 朝宜(2.9×2.9)



109 朝宜(3.4×3.4)

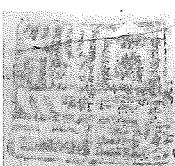


110 仁淵堂(1.4×0.8)



111 仁淵堂(3.1×1.9)

向 國 柱



112 向國柱印(3.7×3.7)



113 犢齋(3.5×3.5)

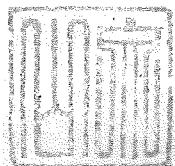


114 智淵堂(4.0×2.1)

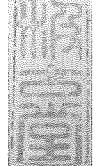
毛 維 翰



115 毛維翰印(2.9×2.9)



116 文山(2.9×2.9)



117 汲古堂(3.8×1.7)

毛 維 藩 (嵩原里主)



118 維/119 藩
(上下とも1.7×1.7)

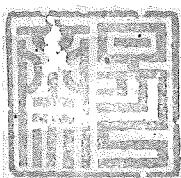


120 世昌(2.7×1.3)

毛允良（亀川親方 盛武）



121 毛允良印(3.4×3.4)

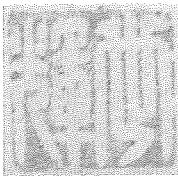


122 易齋(3.4×3.4)

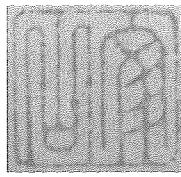


123 裕光堂(4.3×2.8)

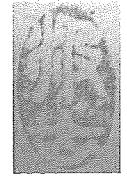
毛世輝（我謝親雲上 盛保 文山） 1788-1830



124 世輝(1.6×1.6)

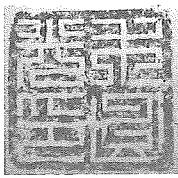


125 文山(1.6×1.6)

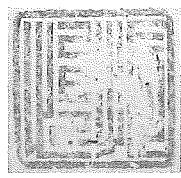


126 汲古(1.8×1.0)

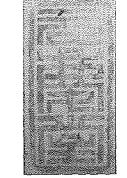
毛台光（豊見城親方 盛綱） 1829-1893



127 毛台光印(3.0×3.0)



128 振恒(3.0×3.0)



129 元慶堂(3.8×1.8)

毛廷章（登川里之子 安泰） 1817-1838



130 毛廷章印(1.5×1.5)



131 不明(1.2×1.2?)
※印影下半欠失



132 不明(1.7×1.1)

毛德昌

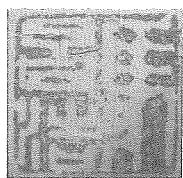


133 規/134 安
(上下とも0.9×0.9)



135 ■■德昌(1.7×1.0)

馬昌浩（濱元里之子親雲上 良珀） 1817-？



136 馬昌浩(2.6×2.6)

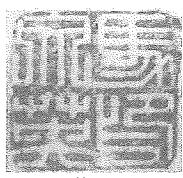


137 良珀(2.6×2.6)

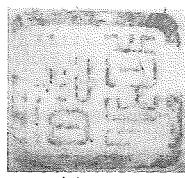


138 中山府(3.9×1.5)

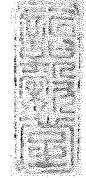
馬文英（金武親方 良智） ?-1864



139 馬文英印(3.3×3.3)

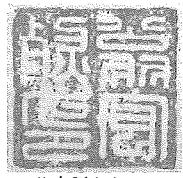


140 良智(3.3×3.3)

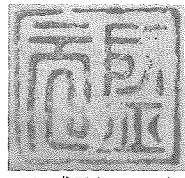


141 詣穀堂(3.9×1.4)

翁宏烈（伊舍堂親方 盛元） 1776-1842



142 翁宏烈印(3.1×3.1)

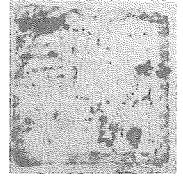


143 盛元(3.1×3.1)

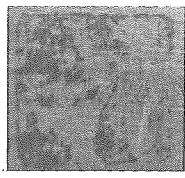


144 山水志(3.5×1.7)

武勇義



145 不明(1.6×1.6)



146 不明(1.8×1.8)



147 一片冰心(2.0×1.0)

| No. | 印文 | 印文の種類 | 使用者 | 使用された書跡の資料番号 | 備考 |
|-----|------|--------|-----------|--|--------------|
| 1 | 鄭嘉訓 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 1308/1658/1828/2047/2089-1/2089-2/9448(画贊) | |
| 2 | 鄭嘉訓 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 2091 | 内輪郭 |
| 3 | 鄭嘉訓 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 6349/8777/8780 | |
| 4 | 鄭嘉訓印 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 2310 | 内輪郭 |
| 5 | 鄭嘉訓印 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 9456 | |
| 6 | 鄭嘉訓印 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 6624/9453 | 内輪郭 |
| 7 | 鄭嘉訓印 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 8807/9029 | 内輪郭 |
| 8 | 鄭嘉訓印 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 6042 | 内輪郭 |
| 9 | 嘉 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 不明 30 | |
| 10 | 訓 | 姓名印 | 鄭嘉訓 | 不明 30 | |
| 11 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 1308/1658/1828/2047/2089-1/2089-2/9448(画贊) | |
| 12 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 2310 | 二重輪郭 |
| 13 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 9456 | |
| 14 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 2091 | |
| 15 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 6349/8777/8780 | |
| 16 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 6624/9453 | 二重輪郭 |
| 17 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 8807/9029 | 二重輪郭 |
| 18 | 爾方 | 字号・別号印 | 鄭嘉訓 | 6042 | 二重輪郭 |
| 19 | 經德堂 | 堂号印 | 鄭嘉訓 | 2310 | 鄭嘉謨の用印42と同一か |
| 20 | 經德堂 | 堂号印 | 鄭嘉訓 | 2091 | |
| 21 | 經德堂 | 堂号印 | 鄭嘉訓 | 8777/8780/9448(画贊) /9456 | |
| 22 | 經德堂 | 堂号印 | 鄭嘉訓 / 鄭其昌 | 1658/1828/2047/2089-1/2089-2/9471 | |
| 23 | 經德堂 | 堂号印 | 鄭嘉訓 | 6624/9453 | 二重輪郭 |
| 24 | 經德堂 | 堂号印 | 鄭嘉訓 | 6042/8807/9029 | 二重輪郭 |
| 25 | 經德 | 堂号印 | 鄭嘉訓 | 不明 30 | |
| 26 | 鄭元偉印 | 姓名印 | 鄭元偉 | 2234 | 回文印 |
| 27 | 鄭元偉印 | 姓名印 | 鄭元偉 | 1657/11139/ 不明 29 | 回文印 |
| 28 | 鄭元偉印 | 姓名印 | 鄭元偉 | 15949 | 回文印 |
| 29 | 元 | 姓名印 | 鄭元偉 | 不明 37 | 30 と連珠印か |
| 30 | 偉 | 姓名印 | 鄭元偉 | 不明 37 | 29 と連珠印か |
| 31 | 鄭印 | 姓名印 | 鄭元偉 | 不明 5/ 不明 6/6312 | 32 と連珠印か |
| 32 | 元偉 | 姓名印 | 鄭元偉 | 不明 5/ 不明 6/6312 | 31 と連珠印か |
| 33 | 長烈 | 字号・別号印 | 鄭元偉 | 2234 | 太輪郭 |
| 34 | 善橋 | 字号・別号印 | 鄭元偉 | 1657/11139/ 不明 29 | 太輪郭 |
| 35 | 善橋 | 字号・別号印 | 鄭元偉 | 15949 | 太輪郭 |
| 36 | 通德堂 | 堂号印 | 鄭元偉 | 2234 | |
| 37 | 通德堂 | 堂号印 | 鄭元偉 | 1657/11139/ 不明 29 | |
| 38 | 通德堂 | 堂号印 | 鄭元偉 | 15949 | |
| 39 | 中山 | 貫籍印 | 鄭元偉 | 不明 5/ 不明 6/ 不明 37 | |
| 40 | 鄭嘉謨印 | 姓名印 | 鄭嘉謨 | 13153 | |
| 41 | 爾顯 | 字号・別号印 | 鄭嘉謨 | 13153 | |
| 42 | 經德堂 | 堂号印 | 鄭嘉謨 | 13153 | 鄭嘉訓の用印19と同一か |
| 43 | 鄭其昌印 | 姓名印 | 鄭其昌 | 9471 | |
| 44 | ■橋 | 字号・別号印 | 鄭其昌 | 9471 | 太輪郭 |
| 45 | 鄭永泰印 | 姓名印 | 鄭永泰 | 13691 | |
| 46 | 汝輔 | 字号・別号印 | 鄭永泰 | 13691 | |
| 47 | 樹德堂 | 堂号印 | 鄭永泰 | 13691 | |
| 48 | 鄭章觀印 | 姓名印 | 鄭章觀 | 6350 | 回文印 |
| 49 | 鄭章觀印 | 姓名印 | 鄭章觀 | 11548 | 回文印 |

| No. | 印文 | 印文の種類 | 使用者 | 使用された書跡の資料番号 | 備考 |
|-----|---------|---------|-----|---------------------|----------|
| 50 | 有光 | 字号・別号印 | 鄭章觀 | 6350 | |
| 51 | 有光 | 字号・別号印 | 鄭章觀 | 11548 | 太輪郭 |
| 52 | 滋德堂 | 堂号印 | 鄭章觀 | 6350 | 印文周囲に雨龍文 |
| 53 | 一山一壑 | 詞句印 | 鄭章觀 | 11548 | 回文印 |
| 54 | 書帶階青 | 詞句印 | 鄭章觀 | 6350 | 遊印として使用 |
| 55 | 鄭德潤印 | 姓名印 | 鄭德潤 | 8779 | 回文印 |
| 56 | 鄭德潤印 | 姓名印 | 鄭德潤 | 11547 | 回文印 |
| 57 | 能潔 | 字号・別号印 | 鄭德潤 | 8779 | |
| 58 | 能潔 | 字号・別号印 | 鄭德潤 | 11547 | |
| 59 | 滋德堂 | 堂号印 | 鄭德潤 | 8779/11547 | |
| 60 | 魏學賢印 | 姓名印 | 魏學賢 | 2642/2643/2644/2645 | 回文印 |
| 61 | 有昌 | 字号・別号印 | 魏學賢 | 2642/2643/2644/2645 | 二重輪郭 |
| 62 | 鶴山軒 | 堂号印 | 魏學賢 | 2642/2643/2644/2645 | 二重輪郭 |
| 63 | 魏學詩印 | 姓名印 | 魏學詩 | 16663 | |
| 64 | 有言 | 字号・別号印 | 魏學詩 | 16663 | 二重輪郭 |
| 65 | 七思軒 | 堂号印 | 魏學詩 | 16663 | |
| 66 | 曾曆 | 姓名印 | 曾曆 | 8806 | |
| 67 | 敬授 | 字号・別号印 | 曾曆 | 8806 | |
| 68 | 雲山江水 | 詞句印 | 曾曆 | 8806 | |
| 69 | 程順則印 | 姓名印 | 程順則 | 9475/13991 | 回文印 |
| 70 | 中州理學 | 詞句印 | 程順則 | 20577 (画贊) | |
| 71 | 東海冠裳 | 詞句印 | 程順則 | 20577 (画贊) | |
| 72 | 雪裏書聲 | 詞句印 | 程順則 | 20577 (画贊) | |
| 73 | ■■■■ | 詞句印か | 程順則 | 13991 | 印文判読不能 |
| 74 | 天下經綸一束書 | 詞句印 | 程順則 | 13991 | |
| 75 | 家在鳳皇山下 | 住址印 | 程順則 | 9475 | |
| 76 | 楊文彬印 | 姓名印 | 楊文彬 | 16137 | 回文印 |
| 77 | 憲章 | 字号・別号印 | 楊文彬 | 16137 | |
| 78 | 青山綠水是生涯 | 詞句印 | 楊文彬 | 16137 | |
| 79 | 梁文弼印 | 姓名印 | 梁文弼 | 4251 | 回文印 |
| 80 | 成烈 | 字号・別号印 | 梁文弼 | 4251 | |
| 81 | 誠孝堂 | 堂号印 | 梁文弼 | 4251 | |
| 82 | 尚溫之章 | 姓名印 | 尚溫 | 1307 | |
| 83 | 和厚 | 字号・別号印か | 尚溫 | 1307 | |
| 84 | 質厚爲本 | 詞句印 | 尚溫 | 1307 | 印文左右に雨龍文 |
| 85 | 尚育圖章 | 姓名印 | 尚育 | 2102/9200 | |
| 86 | 尚育 | 姓名印 | 尚育 | 9468 | 二重輪郭 |
| 87 | 尚育 | 姓名印 | 尚育 | 2 | 二重輪郭 |
| 88 | 尚 / 育 | 姓名印 | 尚育 | 523 (印顎) | 石印 / 連珠印 |
| 89 | 正襟？ | 字号・別号印か | 尚育 | 9468 | 太輪郭 |
| 90 | 精了 | 字号・別号印か | 尚育 | 2 | 太輪郭 |
| 91 | 別是間滋味 | 詞句印 | 尚育 | 2102/9200 | |
| 92 | 必■正 | 詞句印 | 尚育 | 9468 | 印文周囲に唐草文 |
| 93 | 一谿雲 | 詞句印 | 尚育 | 2102/9200 | |
| 94 | 尚健之印 | 姓名印 | 尚健 | 18015 | 印文周囲に唐草文 |
| 95 | 錫（銀？）雲 | 字号・別号印 | 尚健 | 18015 | |
| 96 | 雲淵堂 | 堂号印 | 尚健 | 18015 | |
| 97 | 尚慎之印 | 姓名印 | 尚慎 | 2250/7077 | |
| 98 | 尚慎之印 | 姓名印 | 尚慎 | 13130 | |

| No. | 印文 | 印文の種類 | 使用者 | 使用された書跡の資料番号 | 備考 |
|-----|-------|--------|-----|---------------|---------------|
| 99 | 朝達 | 姓名印 | 尚慎 | 2250/7077 | |
| 100 | 朝達 | 姓名印 | 尚慎 | 13130 | |
| 101 | 宗淵堂 | 堂号印 | 尚慎 | 2250/7077 | |
| 102 | 宗淵堂 | 堂号印 | 尚慎 | 13130 | |
| 103 | 向傑 | 姓名印 | 向傑 | 13131 | |
| 104 | 朝當 | 姓名印 | 向傑 | 13131 | 太輪郭 |
| 105 | 朝當 | 姓名印 | 向傑 | 13131 | 二重輪郭/引首印として使用 |
| 106 | 向元模印? | 姓名印 | 向元模 | 2252 | |
| 107 | 朝宜 | 姓名印 | 向元模 | 2252 | |
| 108 | 朝宜 | 姓名印 | 向元模 | 1725? (印顆) | 石印 / 太輪郭 |
| 109 | 朝宜 | 姓名印 | 向元模 | 1725? (印顆) | 石印 / 太輪郭 |
| 110 | 仁淵堂 | 堂号印 | 向元模 | 2252 | |
| 111 | 仁淵堂 | 堂号印 | 向元模 | 1726? (印顆) | 石印 |
| 112 | 向國柱印 | 姓名印 | 向國柱 | 5859 | |
| 113 | 砥齋 | 字号・別号印 | 向國柱 | 5859 | |
| 114 | 智淵堂 | 堂号印 | 向國柱 | 5859 | |
| 115 | 毛維翰印 | 姓名印 | 毛維翰 | 9454-1/9454-2 | |
| 116 | 文山 | 字号・別号印 | 毛維翰 | 9454-1/9454-2 | |
| 117 | 汲古堂 | 堂号印 | 毛維翰 | 9454-1/9454-2 | |
| 118 | 維 | 姓名印 | 毛維藩 | 2647/2648 | |
| 119 | 藩 | 姓名印 | 毛維藩 | 2647/2648 | |
| 120 | 世昌 | 堂号印 | 毛維藩 | 2647/2648 | |
| 121 | 毛允良印 | 姓名印 | 毛允良 | 不明 26 | |
| 122 | 易齋 | 字号・別号印 | 毛允良 | 不明 26 | |
| 123 | 裕光堂 | 堂号印 | 毛允良 | 不明 26 | 二重輪郭 |
| 124 | 世輝 | 姓名印 | 毛世輝 | 4339 | |
| 125 | 文山 | 字号・別号印 | 毛世輝 | 4339 | |
| 126 | 汲古 | 詞句印 | 毛世輝 | 4339 | |
| 127 | 毛台光印 | 姓名印 | 毛台光 | 16664 | |
| 128 | 振恒 | 字号・別号印 | 毛台光 | 16664 | |
| 129 | 元慶堂 | 堂号印 | 毛台光 | 16664 | |
| 130 | 毛廷章印 | 姓名印 | 毛廷章 | 8317 | |
| 131 | 【不明】 | | 毛廷章 | 8317 | 印文判読不能/印影下半欠失 |
| 132 | 【不明】 | | 毛廷章 | 8317 | 印文判読不能 |
| 133 | 規 | 姓名印 | 毛德昌 | 2251 | 134と連珠印か |
| 134 | 安 | 姓名印 | 毛德昌 | 2251 | 133と連珠印か |
| 135 | ■■徳昌 | 姓名印か | 毛德昌 | 2251 | 引首印として使用 |
| 136 | 馬昌浩 | 姓名印 | 馬昌浩 | 11576 | |
| 137 | 良珀 | 姓名印 | 馬昌浩 | 11576 | |
| 138 | 中山府 | 貫籍印 | 馬昌浩 | 11576 | |
| 139 | 馬文英印 | 姓名印 | 馬文英 | 2640/2641 | 回文印 |
| 140 | 良智 | 姓名印 | 馬文英 | 2640/2641 | 太輪郭 |
| 141 | 詒穀堂 | 堂号印 | 馬文英 | 2640/2641 | |
| 142 | 翁宏烈印 | 姓名印 | 翁宏烈 | 16136 | |
| 143 | 盛元 | 姓名印 | 翁宏烈 | 16136 | |
| 144 | 山水志 | 詞句印 | 翁宏烈 | 16136 | |
| 145 | 【不明】 | | 武勇義 | 16138 | 印文判読不能 |
| 146 | 【不明】 | | 武勇義 | 16138 | 印文判読不能 |
| 147 | 一片冰心 | 詞句印 | 武勇義 | 16138 | |